

教育委員会より

「多久から発信！SDGs」

「運動部活動の地域移行」

令和6年度がスタートしました。今年にはSAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が開催されます。若楠国体以来48年ぶりの大イベントを、市民のみなさんと盛り上げたいですね。

さて、学校においては全国的に「部活動の地域移行」の取り組みが注目されています。少子化による部活動の存続、子どもたちのニーズに合わせた活動の展開が求められてきたからです。そこで、多久市では平成28年度から部活動の在り方を検討してきました。その目的は「子どもたちの興味・関心に沿ったスポーツに継続して取り組める環境を確保する」ことです。

現在は、令和7年度からの休日の運動部活動地域移行をめざして、地域指導者の発掘・確保を行ったり、市内学校で合同部活動に取り組んだりしているところです。すでに東部校と中央校のサッカー部が地域移行を実現し「TAKUMI FC」という名称で活動しています。この数年、多久市では国の実証事業を活用しながら、この地域移行を進めてきました。その中で確認できたことの一つに「地域移行を進めるためには、保護者・地域のみなさんをはじめ、多くの方々のご理解とご協力が欠かせない」ということです。

現在、この「地域移行」を進める中で、指導者の発掘・確保が大きな課題となっています。子どもたちの豊かなスポーツライフを支えるためにも、一人でも多くの人に指導者に関する情報提供や指導への関わりなど、ご理解・ご協力を賜れば幸いです。

この「休日の運動部活動の地域移行」とおとして、子どもがスポーツに継続して取り組む環境づくりとなるよう、引き続き情報発信を行ってまいります。次回は、市報多久「5月号」でお知らせ予定です。

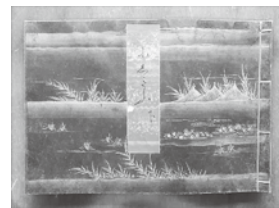
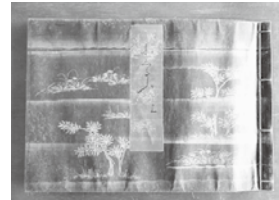
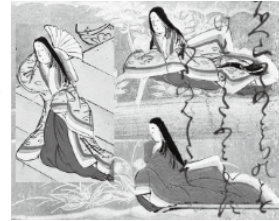


連載

紫式部・和泉式部・小式部の物語(序)

多久家資料「小しきふ小式部」より

▲紫式部 ▲小式部 ▲「小しきふ」上 ▲「小しきふ」下



▶和泉式部

表題の物語の出典は、奈良絵本『小式部』(注1)です。主な登場人物は、平安時代の歌人として著名な紫式部、和泉式部、小式部の女性三人です。紫式部と和泉式部は同世代ですが、『小式部』では親子として設定されています。和泉式部と小式部は歴史上も物語の中でも親子です。つまり、この物語では紫式部が親、和泉式部がその子、小式部がその孫で、三代に渡る女性の物語になっています。物語が展開する要所で和歌を詠む場面があり、歌の道が大切なことも説いています。

『小式部』は、歌徳説話(注2)を中心に、継子物語、鬼退治物語、酒呑童子説話、道命説話、伊勢物語、捨子物語など多様な物語や説話が織り込まれ、繋がっています。本文と挿絵を完備する『小式部』は、現時点では多久市本と岐阜大本の2点しか確認されていない貴重な資料です。5月から、挿絵11点を中心に11回の連載で物語を紹介いたします。なお、右側上段の写真は、『小式部』の表紙・本文・挿絵を合成したものです。

(注1) 奈良絵本は、一般に室町時代後期から江戸時代前期にかけて、御伽草子、歌物語、軍記物語などを題材として制作されました。多久市所蔵の『小しきふ』は、江戸時代前期の作品と考えられます。
(注2) 和歌を詠み、和歌の力で神や仏、人の心を動かし、幸福や利益が得られるという説話文字です。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

短歌 《妻の芽短歌会 互選》

- ◆春荒れに吹かれ流るる 片雲の 抗せぬ様が心に沁みる 浦野 嘉恵
- ◆亡き夫の挿しし沈丁の初花は 僅かに二輪庭隅に匂う 川浪 信子
- ◆沈丁花やさしく香りひきこもる 我が背中押し春を告げあり 梶原恵美子
- ◆偶然はひとつもないよ 絶対には 僕がいること君がいること 野崎 隆幸
- ◆日本人の年間死亡率突出す この原因はニュースにならず 尾形 節子

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆花片を背中に友は野良仕事 本村 則子
- ◆ドイツより古城の葉書届く春 富樫 明美
- ◆落椿石灯笼を囲みけり 武富 律子
- ◆早春の風やはらかに上着脱ぐ おおやはな 大石ひろ女
- ◆たゆたふと筑紫次郎の春の鴨 大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆一歩ずつ譲って暮らす 四世代 小副川ヨシエ
- ◆遅々として進まぬ能登の大地震 中尾 和弘
- ◆打ち上がるロケット見上げ夢を追う 高塚チカ子
- ◆春うらら陽炎たちが阿波踊り 田中 正春
- ◆あと一歩踏み出せないで恋終わる 大谷 和